

我々の考へによれば火山作用は當然間革期には衰へなければならぬ實際現存の火山の爆發は多くの場合局部的の現象であるが構造性地震の徴候をともなふ火山活動は大陸の下若くは大海

の下、の岩漿層の何等か活動の示現と見るべきである、この種の火山作用は日本その他から顯著な例が報道されてゐる、一般に云へば熔岩の大噴出は岩漿層の移動が止むと同時に止むと考へられやうが熔融した岩漿が岩石で被覆されるとその冷却は徐々となり従つてその儘ながく熔融の状態をつゞける部分が局部的に起りそれが周囲の岩石の收縮や地變のため壓縮されて地表に流れ出ることも起り得ることである、アイヌラ

ンドの近年の噴火はかくの如くして起つたのであらう、蓋し現在の火山作用や地震現象は過去のわすれがたみといふべきである。

七、結 論

要之に地球の表面のあらゆる現象に放射能が關與し、すべて根源を探ればそれにとざりつく地量均衡層の熔融と膨脹は直に地殻の上下の運動を導き放射性熱の移動は間革期の地變を説明する、又潮汐作用や歳差の影響が地殻に働いためにはその前に放射性熱にて岩漿が熔融されなければならぬ地殻の變動を論ずる際放射能を是非考慮に入れなければならぬ所以である。

(伊藤貞市抄譯)

歐洲に於ける國境の變移地帶

ア ン ス テ ャ ヲ

(ジエオグラフィカルマガジン第三十九卷所載)

世界大戰後に於て獨立し、又は獨立を恢復し

た新興國は、不思議にも歐洲を北は北氷洋から

歐洲に於ける國境の變移地帶

南は地中海へ横斷した比較的狭い地帯の中にある。フィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトワニア、ポーランド、及チエツコースロヴァキアの各國は獨立し、ダンチツヒ及フィウメは自由市となり匈牙利は奧地利國から分離し、セルビヤは發展してセルブークロアトースロヴエーヌとなつた。それから一九一二及一九一三年のバルカン戰爭の後に「アルバニア」は獨立し、この地帯の殘餘の國でルーマニア、ブルガリア、及希臘の三國は各其の國境を變更した而してこの三國のセルビアと共に獨立國となつたのは實に前世紀の事であつたのである。して見るとこの變移地帯の國々が獨立を得たのは實に最近の事實であるのであるが、この地帯の西の國々を見ると戦後の領域變化は極めて少く、又地帯の東は未だ其最後の狀態に落付いて居ないやうであるが歐洲露西亞の全體がたゞへ政治的單一體とならなくとも、相寄つて一つの聯合國を作くるであらう。

かくて最近に獨立した國々をふくむこの地域

は將來に互つて變化なかるべしとは考へられな
い、が今上述の事實から歐洲を第一比較的安固
な西部の人口二億五千萬を含む地域と第二、東
方地域即ロシアで人口一億萬餘の地と、第三に
人口一億餘を含める變移中央地域との三つに分
けるとこの最後の地帯は歐洲全地域の殆ど五分
一を占めてゐることになる。

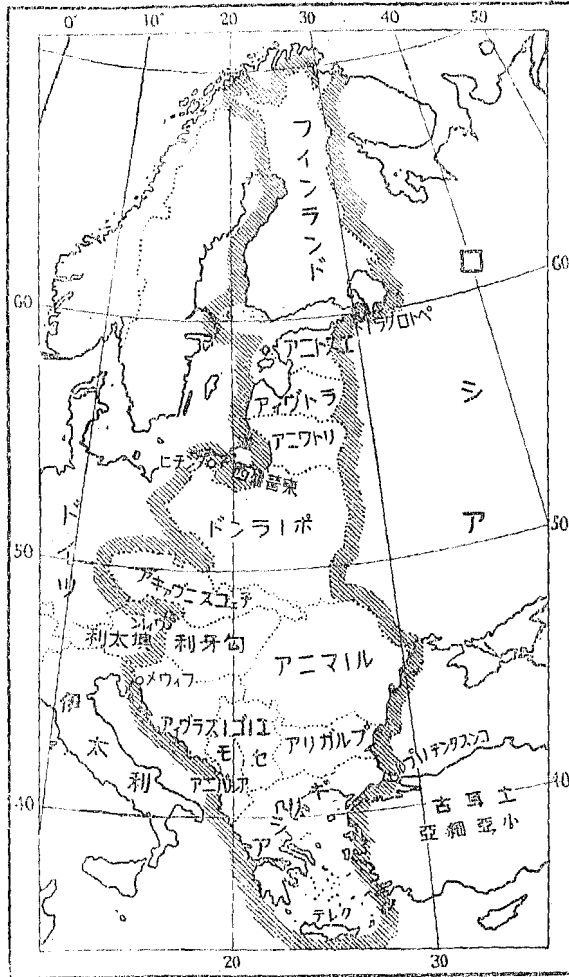
次に注意すべきはこれらの新興國は主として
三つ大帝國が分裂した結果で、それは東から延
びてゐたロシア及トルコの二大帝國と其間に奧
地利帝國が介在してゐた地域である、但しこの
東に東普魯西と云ふ、獨逸の飛地があるが、これ
は西方よりの闖入者と見るべきである實にこの
地帯は東西からの勢力に影響される所で、地理
的にも又人文的にも著しく影響されてゐるので
ある。まづ、地理學的に考へると、歐洲は亞細
亞の半島であるが、其東部は北亞細亞に連續し
て其平坦なる地形と大陸性氣候が一樣で植物帶
は北方の凍土帶から森林帶次に草地といふ順序
迄全く類似し、地質時代に於ても變化少く太古

代に少しく變化をうけたに過ぎず其結果として
出來た褶曲山脈が露西亞平原の南端及東端に少
しく存するのみである、従つて礦物がこの褶曲

支脈が灣入し爲に氣候は比較的快適であり濕氣
に富むである、其地質構造を見ると繰返し地構
造力の働をうけ、カレドニアン線に沿ひて北海

地域に於て産
せらる
るの利
あるも
交通の
障害に
なる事
はない
から、
東方歐
洲は全
く亞細
亞の影
響と其
移民とに開放されてあつたのである。
之に對して西歐洲は海洋的であつて、大洋の

の土地となつたが地變の結果その地貌は極めて
複雑になり、水産、農産、鑛産、いづれも多種



歐洲に於ける國境の變移地帶

多様となつた、加ふるに海岸の交通が便利であつたために地中海文化の發展を導くこととなり、同時に地表の凸凹が自から個々の小國家を分ち地域毎に獨立し得るやうにしたために、國民性とか自覺とか云ふものが出來てきて遂には政治的自由を要求する國民の居住地となり、十九世紀には各國何れも、民本的の立憲國になつた。

而してこれらの國民は一言して歐洲人であるが、三つの異つた種族から成立してゐる、即ち北人、アルピン、地中海の三種族であるが、永い世紀の間狭い地形に支配せられ異民族互に融和し全く異つた民族で言語まで違つても猶一國民であるとか云ふ感を持つようになつて現在西歐洲では多數の國民が各々獨立の言語と國民性を持つやうになつてゐる。其宗教は地中海文化が一時西歐に擴布した結果として、ローマン、カトリック教が全體に行渡つたが今日ではプロテスタントに屬する國民も可なり多い。

之に反して東歐洲は其地質地貌の一樣と氣候と植物の同様なること等の原因から軍隊の活動

に適し民族の徐々の移轉に放任されてあつた、地中海文化の如きは其氣候の嚴しい事及飲料水の乏しい事の外にアジアの遊牧人種の侵入を恐れたるが故に此地方に擴布しなかつた、従つて此地方は歐洲でありながら永い間亞細亞の一部分といふ形で人口も亦極めて稀薄であつたが、ロシアの發生と共に歐洲の仲間に入つた者である、蓋しスラブ民族はもとロシア平原に近い中央歐洲の高原地方に發祥したもので最初は東方の森林地帯に侵入しついで草地及南方の乾燥地迄をも占領した者である、然るに此地方に於ける亞細亞人の人口數は極めて少く一部は移轉し一部は吸収されてスラブ民族のみが言語に於ても血屬に於ても優越の地を占める事となつた、もし十九世紀の終の國勢調査が信すべき者とすれば當時、東歐に住んでゐた亞細亞人の裔は七百萬人以下であつたらしい。かくてツァル政府が東歐全體を支配した間に其宗教は西方のローマンカトリックとは違つたギリシア正教を奉じ、スラブ語が流布したものである、かくて東方は

北方严寒の地と南方乾燥の地に住める少しの異民族を除いて、全體は其地形の一樣なるが如く其住民も一樣な者の住む處となつたのである。

是より先に亞細亞からの侵入者は東歐を席卷したけれども、一般に中央地帯即變移地帯に來ると其行進を遮斷されたものである、この地帯の南には山脈が横はり北には洪積期永河の浸蝕をうけた湖沼が森林地の中に無數にある、そこで侵入者の勢力はこの自然の障壁に阻害され消耗された結果彼等はこゝで其遊牧生活から離れてむしろ被征服者の森林生活に服従するか或は之に課税して衣食するかの途を取るに至つた、例へばブルガル人が南スラブ人の農業經濟を採用したる如き、又近くはトルコ人が或は農事につか或は課税によりて衣食したるが如きこれである。但し匈牙利の平原に侵入した、マギヤル人は例外であつて彼等はこゝに永く牧畜の民として定住し其近隣を支配したのである、更らに北方の森林地に入ると亞細亞より侵入した森林居住者は依然として過去の傳統を失はず、人

口稀少なるが故に征服者と云ふよりも寧ろ植民者として住んでゐるのである。さればこれらの北方の民は著しくアジア型であるが南するに従つて其の型式は變化をうくること多く、ある者は歐洲人との區別がつきかねる、けれども其の傳統は猶シアア的であり侵入者の名は殘存して居つて、言語の差異は屢々感情上の差異を來し、征服者と被征服者との間の統一が甘くでない。蓋し中央歐洲の地形の變化多いことゝ其の物産の種々雜多な事から適當なる地域の廣さに、ある民族の團體が一獨立國家を組織し易い狀態にはあるけれども、何分アジアからの侵入の歴史が新しい故に各地方的に民族が一致結合することが出来ない。即ちこの地帯のアジア的要素に屬するものに、フィン人、エストニア人、マギヤール人、ブルガル人、トルコ人があり歐洲人に屬するものにスエーデン人、ゲルマニ人、スラブ人、アルバニア人、及ギリシア人があつて互に相對抗してゐるのである。猶ほ此外に、北人の子孫であるレット人及リトワニア人は餘

程の古代から他より全くかけはなれて、言語及民族の個性を保持してゐる。次に宗教に就て見る。この地帯は非常に混雜してゐるが、大略北方は西歐に似てローマ教又はプロテスタント教が優越し、南方では希臘教が尤も廣く行き渡つてゐ、中央部では諸派が入り亂れてユニエート派の變化したのが信ぜられ更に南の端にくるとトルコ人が回教を輸入しバルカン半島中には今猶之を信じてゐるものがある。従つて歐洲の中央地帯は政治上に變化ある地域であると同時に人種も言語も又は宗教も非常に多種多様であつて、其國民性の上に亞細亞的影響をうくる事は西歐又は東歐の何れよりも濃いと見られる。猶一步を進めて考へると、この地帯では國民の自治と云ふ事がこれ迄發達しなかつたものである、西歐に發達した政治團體の自働の形式はこゝに來るとユツラシアの大部分に廣かれる帝國制又は征服的專制の政體とぶつゝかるのである、即ロシア帝國のごとき東は太平洋岸に伸張したけれども、西はスカンデナヴィア、バルチツ

ク海及獨逸のために阻まれたのである、而して中央歐洲に於てスラブ、マギヤール、及ルーミア人を統轄したる奧地利帝國の出現がありバルカン半島全體はトルコの配下に雌伏してゐたのである、かくて現今の中央地帯全部の政治的狀況はこの露奧土の三帝國の崩壞によつて生れ、而かも彼等の政治的訓練から又は傳統から全くかけはなれたる、人民の自治政體を得んとするの努力となつた、思ふに西歐洲に於て存する民本的な政治と政府を得んが爲めには數世紀に亙る政治的訓練を必要としたのであるから、今俄にこの中央部へ西歐政治の理想と其政體とを移したとしても、それが容易に運用されると云ふことはあり得ないのである。ことにこれら新興の國々は政治的の統一を得たがために狹い地域の間に於て互に國境と云ふ交通上の障害を築いたから、經濟上誠に困る事になつたのである、何れの國も自給自足が出来ぬ故に有無相通せなくてはならぬが、新に出來た國境がこれを阻むと同時に相互の國民の猜忌心を刺戟する恐

がある、其が平和になつて都合よく交通が出来
る迄には、これから先、多くの年月を要する、蓋
し此地帯では今や政治上の自由は得たが、その
爲に生産と商業と繁榮は阻害された形である。

元來従前の三國の首府は各の母國から端の方
に偏して置かれ、いづれもこの中央地帯の中か
又は附近に置かれてあつた、従つてこの三帝國
の崩解は同時に各の首府としての權勢と繁榮と
を失墜に導いた事はこの際注意すべき變化であ
る、即ちペトログロードは其過古の位置をモス
クバに譲つて従前の重要さを失ひ。維納は今や
其政治的經濟的基礎を失つて、將來大都市とし
て存し得るや否不明であり。コンスタンチノー
ブルは名ばかりトルコの政府所在地であるが、
其實質は既にアナトリアに移動してゐるのであ
る。而して従前の三帝國内に住んだ政治上の特
權者は多くは土地の掠奪者であつた。バルチツ
ク地方のロシア貴族、ボヘミアに於ける奥人、
バルカンに於ける土耳古人は何れも驚くべき土
地を領有し、ために土人は小作農業者域の下

つて非常に壓制をうけたのである。「土地ハンカ
る飢餓人」それはロシアの農民のみでなくて此
地域の土民全般の特質である、従つてそれが帝
國を瓦解に導いた有力な因子となつた者で政治
上及軍事上の權力が移動するや忽ちに土地所有
者は其位置を失墜したのである、而して今や土
地を租借する形式に種々あるけれども何れも大
地主でなくて全體は小さい面積の土地所有者と
變じ、しかも其所有が個人的であるべきか又は
社會的であるべきかと云ふ事を問題にしてゐる
現狀である。露奥土の三國人によりて土地が所
有されてゐた事の外に同様の土地所有を行ふて
ゐた者にポーランド人及マギヤール人があつ
た、グイスチュラ盆地及ハンガリー平原の各の
平地に居住し過古に於て政治上經濟上優越の地
歩を占めたこの二國民は自分の土地以外に於て
廣い面積を所有してゐた。然るに大戰の結果は
兩者同一でなく、戰敗のマギヤールは彼等の土
地を最小限度にきりつめられたのに反し、聯合
側のポーランドは東ガリシヤ、白露西亞、及リ

トワニアの大部分に對する支配權を獲得した、しかしこれらの地方はポーレンの數も少く言語も感情も共通でない土民が住んでゐるから、自からポーランドの東境に於て政治上及經濟上からの葛藤が起つたのである、實にこの地帶を通じて少數大地主の存することが未來の平和に對する大なる脅威である。種々の民族が地理的影響の下に互に了解して居住し得る程度に落付いて居ないから、各民族的及國民的感情の背馳から爭鬭を斷絶しない、たとへ新國境が地理的に正しく定められ民族自決主義の下に適法に定められたとしても、其地域内に其の國家に對する外人の混在することを免がるべくもない、従つて彼等が平和の職業に潛心して物質的にも精神的にも満足の生活に入るためには各國互に寛容であり、淡泊に交通するの必要があるがそれは誠に困難な事である。

更にこの地帶の政治的問題を複雑にするものは實に高度に發展せる西歐の二國がバルチック海及アドリア海に沿ふて其勢力を東進するにあ

る、即北歐に於ては獨逸商人は夙にバルチック海及フィンランド海岸に足場をつくり、教會や敎團を建てついでこれらのキリスト敎貴族が其の内地の廣い面積を支配し農民を治めた、そこでこの地方ではこの土地支配と云ふことゝ交通と云ふことの二つに關係した困難な問題が発生する事になった、而してこの貴族の土地を沒收して農民の政治を確立したのが、エストニア及ラトビア二國の發現であるが、一方の交通に關しては今も外交問題としてのこつてゐるのである、蓋しポーランドはヴィスチュラ流域の國であるから、自ら其河口に其國の出口を有せなくてはならぬのであるが、東普魯西亞の植民地及西普魯西亞がこの河の下流地方に延びて、ポーランドの領有を妨げ、河口のダンチツヒには主として獨逸人が住み其商業は獨逸人の手によつて行はれてゐる。従つてダンチツヒの自由市となつた事は根本的に正當であるが、ポーレンと獨逸とが協力しなくては交通商業は決して圓滑に行はれないであらう。

同様にアドリアチック海の方面に於て、伊太利人はダルマチヤの島々及海岸に植民したがこゝでは其地の山岳多い地勢が伊人の内地に入つて土地を支配することを妨げたから問題としては交通及軍事上のものゝみが生ずる事になつてゐる。フィツメ問題と云ふものがそれであつて、北方のダンチツヒ問題に類似してゐる、ユウゴウスラフの國は其海岸に達する出口に伊太利の植民地があることになつた、従つてフィツメもダンチツヒ同様自由市になるべき筈であるが、伊太利の軍隊は全國商人の味方をしてユウゴウスラフに同港を與へまいとする、而してこの二港は事情の類似驚くべきものがあつてダンチツヒが東普魯西亞の此方にあるやうに、フィツメの彼方には今、伊太利の支配せるザラ港があるのである。

バルチツクの陥落はこの中央地帯を横ぎつてフィリンド灣を作り、そこにロシアの出口ベトログラードを設けしたのであるが、こゝは冬期結氷の憂があるから、ロシアは其出口として

エストニア及ラトヴィアを要する、従つてこの三國の間には、商業交通上將來に面倒なる問題を惹起すに至るであらう。同様に歐洲の南部に於ては、東地中海の陥落に伴ひマルモラ海が出來そこにダルダネルス及ボスフォラス海峽を通じ東歐への交通路を造つたがこゝにも歐亞の陸上交通と、黒海への海上交通に關し關係列國の間に問題が生ずる。嘗て獨逸の二國は、バルカンを通じて東方への進路を求めたゝめに、露國の黒海沿岸政策及英國の對印度政策と衝突するに至つた。かやうに中央地帯の不安定な政治狀態は更に、バルチツク及黒海への東西の交通問題によつて愈々益々不安に導かれるのである。加ふるにこの中央地帯の中央部は其地質時代の過古の變動からしてボヘミア及カルパチアンの山塊が出來た結果、そこが鑛産の豊富なる地方となつた、中にも鐵、石炭、岩鹽、石油の重要鑛物が多い。これらの鑛業が發達するならばチエツコ、スロヴァキアの政府は、獨逸語を語る鑛區持主共との間に面倒な問題を惹起すのみで

なく、ボヘミアに於ては獨逸兩國人の企業に對し、上部シレジアに於ては獨逸人の投資と云ふやうな事の爲めにひいては獨逸波蘭間の國際問題を起しそれがやがて、英佛聯盟の上に影響するであらう、從つてこの地域の鑛業工業等の復興に關しては「主たる同盟及聯合國」の間に協同一致の平和維持と云ふ事がなくてはならぬ。

之を要するに、この政治的に變移多き地帯は東、西歐洲の中央にあると云ふ點から生じたもので其政治的經濟的問題は其地理的人文的事情の複雑せるに胚胎するものである。バルチツ

ク及地中海の陷落と中央部の鑛産が西歐人をこの方面に引きつけたゝめに政治問題は更に複雑となつたのである、恐らく將來長期に互つて猶不安がつゞくであらうが、結局に於てこれらの新興國が西歐洲に對して反動を起す時が來たならば、それは實に全歐洲の破滅である、主として地理學的原因より生じたる政治的經濟的の困難なる諸問題の解決をはかるには、どうしても國際聯盟の協力一致が必要であり平和と繁榮との維持を第一義とせなくてはならぬ。

(藤田元春抄譯)

宮古島の結婚と祭禮

ネ
ブ
ス
キ
ー

ネブスキー氏は露國ペトログラード東洋語學校出身の新進東洋學者で、世界戰爭中に日本に

來り小樽高等商業學校に在職中アイヌ民族を研究し其後新設の大阪外國語學校に遷り京都大學